In the Flow
Lines of Encounter

SHON Kyung Hwa
ONO Tamaki

「流れの中で：線の遭遇」

ソン・キョンファ
小野環

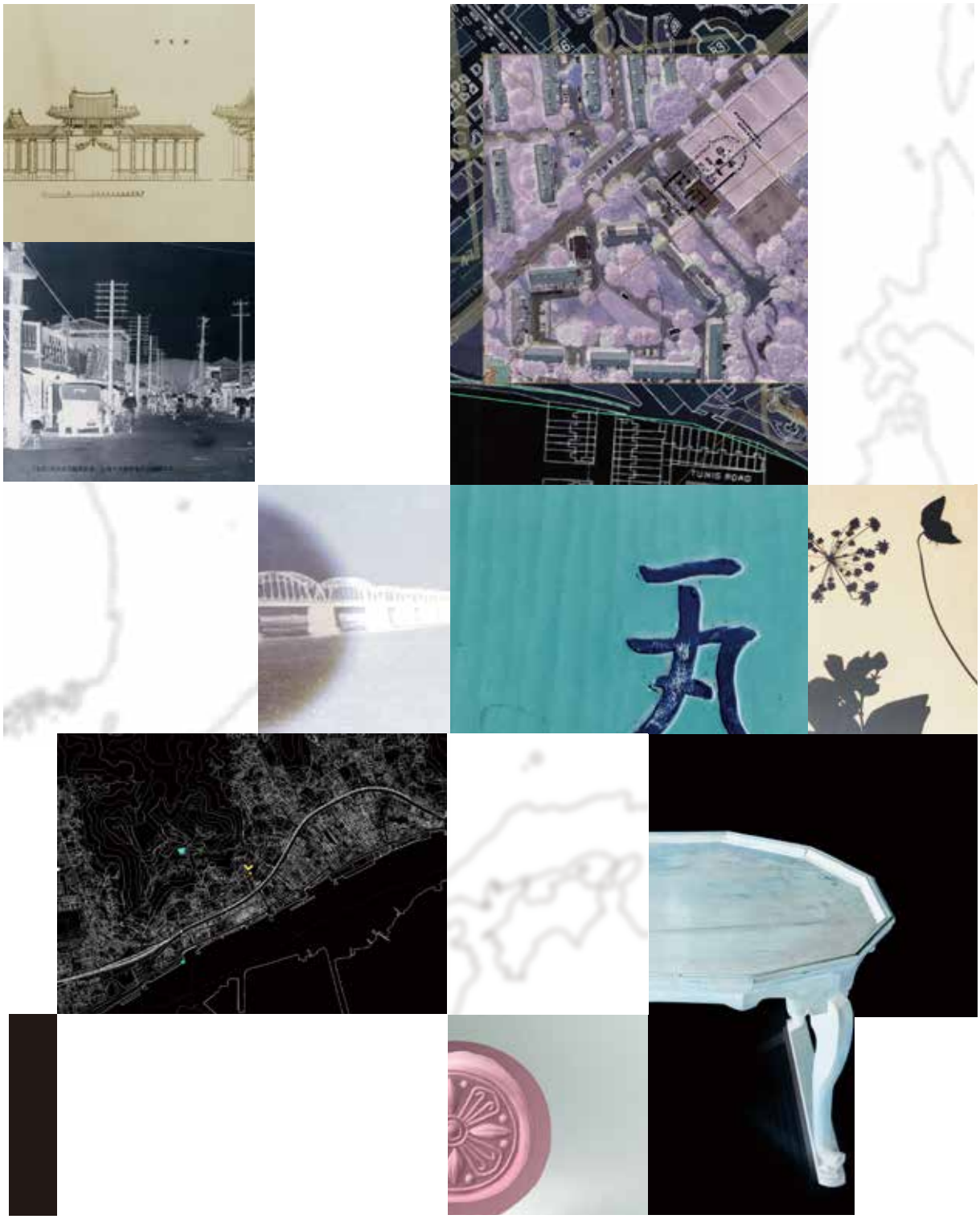
2026 11/28(土) ~ 2027 1/11(月・祝)

休館：月曜日（1/11 は開館）、年末年始（12/29-1/3）
開館時間：9:00~17:00（入館は 16:30 まで）
入館無料

尾道市立美術館第 6 展示室

企画：小野環、ソン・キョンファ　企画協力：ソン・キョンミン、吉田彩花　協力：NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト、ギャラリー瓦全房、がぜん房、高橋玄洋、横谷奈歩、竹原和秀　助成：公益財団法人朝日新聞文化財団、エネルギア文化・スポーツ財団

尾道に残された韓国の記憶から始まった一連のプロジェクト



尾道市立美術館
〒722-0032 尾道市西土堂町17-19千光寺公園内 Tel.0848-23-2281

In the Flow Lines of Encounter

「流れの中で：線の遭遇」

ソン・キョンファ
小野環

「In the Flow」（流れの中で）は、日韓双方のアーティスト、研究者、キュレーターが推進してきた国際共同プロジェクトです。本企画は、大学間交流事業を機に尾道を訪問したソンに小野がこの土地に残る戦前の韓国との関係の痕跡を紹介した事から始まりました。

瀬戸内海に面した港町・尾道には意外にも、建築、家具、あるいは人々の記憶の中に、戦前の日韓関係の痕跡が数多く残されていました。こうした断片的資料を手がかりに過去を読み解き、戦後世代にとって失われつつある記憶を可視化し、過去の出来事を再考する試みです。

本展は、地域史を国際的視点で創造的に掘り下げていきます。尾道に潜在する知られざる韓国との歴史的繋がりに着目し、地域のフィールドリサーチとアーティストの創造力を融合させた国際共同プロジェクトの成果発表となります。単なる歴史資料の展示に留まらず、尾道で発見された戦前の絵葉書（ソンの故郷・天安の風景）をはじめとする、個人史と地域史が交差する発見を起点に、映像、立体、インスタレーションへと展開した作品群をリサーチ対象の場所である尾道で公開するものです。

また、そこから展開していった新たなプロジェクト（日英博覧会における韓国館、尾道と天安）についても紹介します。

関連プログラム：

アーティストトーク・ワークショップ　11/28 土 14:00~16:00

集合：尾道市立美術館第 6 展示室に 13:50

第 6 展示室の展示を見ながらプロジェクトを振り返り、これまで広く知られていなかった尾道と韓国のつながり、時代の中での変化について参加者とともに考えていきます。

ウォーキング・ワークショップ 11/29 日　14:00~16:00（オノツテ〜和作旧居）

集合：オノツテビルヂングに 13:50

尾道の街中に残された韓国の記憶が残る場所や建物をめぐり、最後は VillaWasaku（小林和作旧居）でプレゼンを行ったあと対話の時間を設けます。





右
ソン・キョンファ
Surfacing the Shadows: Blue Impressions
2026 年
紙にサイアノタイプ

左
小野環
ダブルバインド
2026 年
アクリル、木材



小野環 & ソン・キョンファ
Echoes across Time: Mapping Parallels between 1910 and 2025
2025-2026 年
ポストカード



京釜本線天安名所（その七）絵葉書
瓦全房に残されていた絵葉書



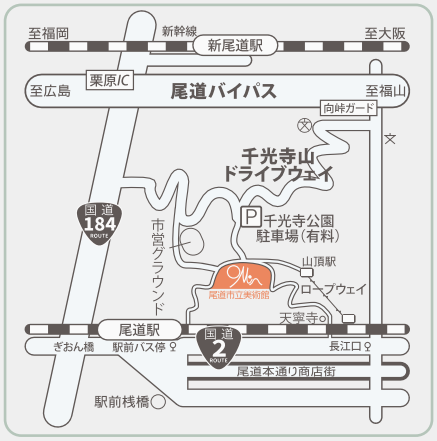
小盤（ソバン）
小林和作旧居にあった韓国家具

アクセス

【公共交通機関】
◎ JR山陽本線「尾道駅」から東行きバス（①番のりば）で「長江口」下車、千光寺山ロープウェイで千光寺公園へ。
◎ JR山陽本線「尾道駅」/JR山陽新幹線「新尾道駅」から、タクシーで約15分。
※ 美術館最寄り「千光寺公園」行きバスは便数が少ないため、ご注意ください。

【自動車】
◎ 山陽自動車道・尾道ICから約20分、福山西ICから約15分
※ 千光寺山ドライブウェイ経由で「千光寺公園駐車場（有料）」ご利用の場合、入館時に駐車券の提示で1名限り100円割引。

〒722-0032
広島県尾道市西土堂町17-19
千光寺公園内　TEL. 0848-23-2281



【ご来館のお客様へ】
会期やイベントの変更等をさせていただく場合があります。また、状況により感染拡大防止対策のご協力をお願いすることがあります。ご来館の際には美術館公式ホームページ等で最新情報をご確認ください。
https://www.onomichi-museum.jp/

尾道市立美術館

COCORONOMICHI

＊ COCORONOMICHI とは、一人ひとりが尾道市への愛と誇りを抱くことを目的とした「シビックプライド」キャッチフレーズです。

